

授業科目 解剖生理学Ⅰ

【担当教員名】 宮岡洋三	対象学年	1	対象学科	栄養
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要及び学習目標】

本科目では、「生体の構造（つくり）」と「生体の機能（働き）」について、その基本的な知識を学びます。解剖学も生理学も、ともに生体を理解する上での基礎となる学問です。解剖学が「生体の構造」に主眼を置くのに対して、生理学は「機能（働き）」の理解を目的とします。しかし、この両者は互いに密接に関連しているため、生体の理解にとって車の両輪と言えます。管理栄養士養成では、解剖学と生理学を統合した科目として「解剖生理学」を設けています。ここでは、解剖学を先行させて構造的な知識を得てから、生体機能の理解＝生理学へと進みます。本科目では、生体機能の中でも「植物機能」と言われる分野に比重を置いて学びます。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	細胞・体液・血液	生体の構成単位である細胞とそれを囲む体液・血液について学ぶ	講義
2	細胞・組織・器官	細胞・組織・器官の種類、構造ならびに働きについて学ぶ	同上
3	感覚系の構造と機能	感覚の基本特性と各種感覚器について基礎的知識について学ぶ	同上
4	運動系の構造と機能	運動器である骨・筋・関節などの基礎的知識について学ぶ	同上
5	神経系の構造と機能-1	神経系の基本構成ならびに末梢神経系の機能について学ぶ	同上
6	神経系の構造と機能-2	脊髄から大脳皮質に至る中枢神経系の各レベルの機能について学ぶ	同上
7	内分泌系の構造と機能	ホルモンによる生体機能の調節機構の基本概念と実例について学ぶ	同上
8	循環器系の構造と機能-1	心臓の収縮機構ならびに血液循環の機構について学ぶ	同上
9	循環器系の構造と機能-2	血圧などを制御する循環調節反射の神経機構を中心に学ぶ	同上
10	呼吸器系の構造と機能	呼吸機能に関係する神経性ならびに化学性調節機構について学ぶ	同上
11	消化器系の構造と機能-1	消化器系に属する管腔臓器と実質臓器の基本構造について学ぶ	同上
12	消化器系の構造と機能-2	消化管運動の基本ならびにその神経性ならびに液性調節機構を学ぶ	同上
13	消化器系の構造と機能-3	消化液分泌の基本ならびにその神経性ならびに液性調節機構を学ぶ	同上
14	栄養と代謝	生命維持に必須な栄養バランスを調節する神経性および液性機構を学ぶ	同上
15	泌尿器系の構造と機能	腎臓の働きを中心に尿生成とその体液調節における役割を学ぶ	同上

【評価方法】

期末試験

【履修上の留意点】

【使用図書】

教科書・参考書別	書名	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	新しい解剖生理学（改訂9版）	山本・鈴木・田崎	南江堂	1997年・3,300円